地域運営組織全国セミナーin北海道（2026.10.20）

笑顔 幸せ　みんなでつくる　住民主体の地域づくり

～鷹栖町の地域運営組織の取り組み～

鷹栖町
TAKASU

まちづくり推進課地域振興係　係長　大内義崇

まちの概要

北海道鷹栖町

■人口：6,388人
（R8.3月時点）

■面積：139.42㎢

■「あったかす」を合言葉に、住民福祉や暮らしの質の向上に重点を置いたまちづくりに取り組んでいる。



北海道有数の米どころであり、自然豊かな盆地帯に水田風景が広がる。夏は30度、冬は氷点下20度という、はっきりとした四季の移ろいが特徴



北海道第２の都市、旭川市に隣接している生活利便性と、個々を大切にしたきめ細かな子育て・教育環境を求めて、子育て世代の転入者が多い。



■アクセス
JR旭川駅まで車で25分（バス35分）
旭川空港まで車で50分

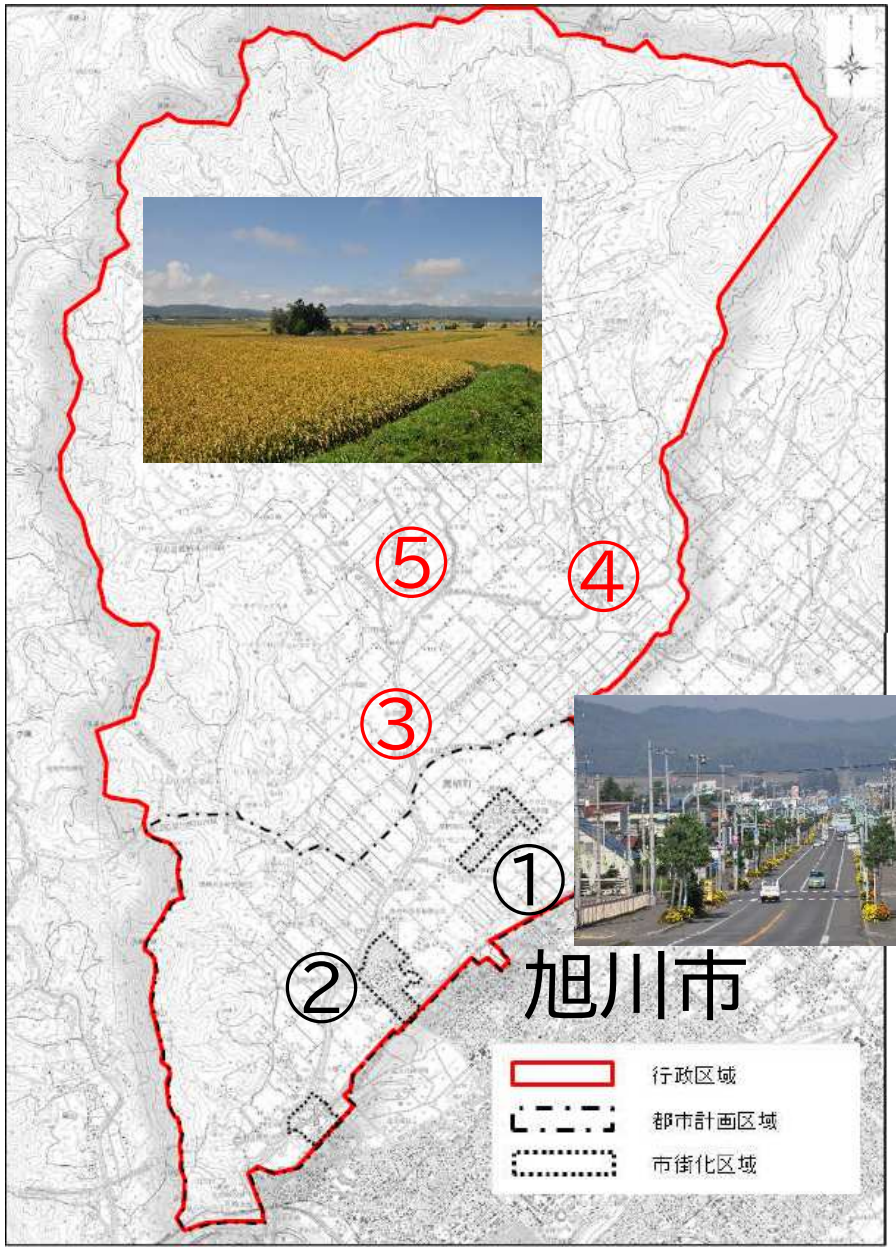


■産業・就業
農業（水稲がメイン）
福祉（高齢者、障がい者）
旭川市内への通勤

■特産
お米、トマトジュース「オオカミの桃」







北海道鷹栖町

地区の単位:5つの地区

（公民館区≒旧小学校区）

（高齢化率）

① 鷹栖地区（2,498人、38.5%）
② 北野地区（3,267人、32.1%）
③ 中央地区（284人、47.2%）
④ 北斗地区（238人、44.5%）
⑤ 北成地区（101人、61.4%）

全町人口　6,388人（R8.3月時点）

鷹栖町　各地区の概要

地域	鷹栖	北野	中央	北斗	北成	全町
世帯数	1,249	1,479	179	118	55	3,080
人口	2,498	3,267	284	238	101	6,388
（0-14歳）	230	424	21	25	4	704
（15-64歳）	1,307	1,795	129	107	35	3,373
（65歳以上）	961	1,048	134	106	62	2,311
高齢化率	38.5	32.1	47.2	44.5	61.4	36.2
75歳以上人口	599	586	91	66	41	1,383
（75歳以上割合）	24.0	17.9	32.0	27.7	40.6	21.6
自治会数	16	14	5	7	4	46

※46自治会のうち ⇒ 戸数15戸以下＝19自治会（うち、10戸以下＝8自治会）

本日の内容

鷹栖町の取組み経過をなぞりながら、
行政としての関わりの視点を中心に説明します。

①. 起点 は町の長期計画策定

②. 形成 モデル地区と協働で取組む3年間

③. 始動 運営体制や仕組みを見直しスタート

④. 持続 協働、共同、自治の発展へ

鷹栖町の取組み経過

① 「起点」総合計画策定（H30-31）

② 「形成」地域運営モデル地区（R2-4）

③ 「始動」5地区で新運営体制始動（R5-7）

④ 「持続」地域運営体制第2期（R8-10）

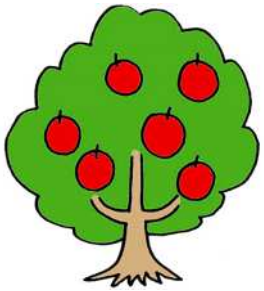
目指すべきまちの姿、地域づくりとはなんだろう・・？



【当時のトレンド】
地方創生戦略【第1期】

移住、人口増、PR合戦！
外向き、近視眼的な視点偏重への疑問・・





何かを“持ってきて”解決（創生）ではなく、
足元の地域づくり、「土づくり」をしたい

良いタネ（方法や手段）を持ってきても、土が良くないと育たない
根がしっかりと張り、まいた種が育つ土壌をつくる

まちに住む人の思い、つながり、考える、行動する・・を高める

住民参画のコンセプトを明確に策定作業を進めたい

■分野別ヒアリング

課題や提言、35団体と意見交換

■まちづくりセミナー（9回）

事例を学び（インプット）

ワークショップで思いを共有

■住民ワークショップ

・地区ごとに課題と資源、未来への思いを共有

・その他、子ども参加、多世代等テーマ型など



◆まちづくりのキャッチフレーズ◆

笑顔 幸せ　みんなでつくる　あったかす







話し合いを**大切**にして‥
一人ひとりが関わるまちづくりを目指そう！
（住民の決意・行政の決意、連携の決意を計画に明記）

■**決意**を実現するための**手立て**として、
重点施策に**「地域運営組織」**を位置づけ





描いた夢を
⇒ **実践へ**


分野横断的に取り組む重点施策

5 地域運営の基盤づくり

人口減少社会に対応して、地域課題を住民の力で解決していく基盤を構築していくことを目指します。

◆取り組み方針

公民館ごとの地区割りをベースとして、それぞれの地域に合った課題解決の仕組みづくりを進めます。
・実態調査や事例研究に取り組みながら、各地区と地域課題の解決に向けた進め方を協議します。
・地域防災をテーマとした課題に対して、住民力によって解決を図る運営体制の検討を進めます。
・次世代の地域づくりを担う人材の確保、育成に取り組みます。
・地域づくりに関する知識や参画意欲を高めるための、学びの機会を継続して提供します。
・まちづくりの様々な場面で、住民が参画しやすい環境づくりを進めます。

関連指標と目標値

指　標	現　況	目標値
新たな地域運営体制の構築	―	構築
自主防災組織の設立	―	設立
町民主体や協働で取り組む地域課題解決の新たな事業	―	20事業
まちづくりに関するワークショップ、セミナー開催	―	毎年開催
行政計画策定時の住民参加機会の確保	―	確保

「起点」のポイント（鷹栖町の場合）

行政主導で
地域主体の地域づくりへ

ワークショップを重ねて、未来へのビジョンと「誰が行動するべきか」を、
住民の言葉で確認するプロセス ⇒ 時間、空間、仲間を共有する

人口減・高齢化に伴う課題（コミュニティや暮らしの維持、担い手不足等）を
解決していく仕組みへ変えよう！

鷹栖町の取組み経過

① 「起点」総合計画策定(H30-31)

② 「形成」地域運営モデル地区(R2-4)

③ 「始動」5地区で新運営体制始動(R5-7)

④ 「持続」地域運営体制第2期(R8-10)

■モデル地区スタート時に描いた基本的な方針

地域のことを地域の力で解決する
地域が実践しやすい仕組みへ（行政の支援のあり方含めて）

地区の課題や解決策を協議し、
地域づくりを実践していく機能
（協議と実行）

（これまで担ってきた）
生涯学習・学びの機能 に加え

防　災

自治の拠点

支え合い
見守り



■ 3年間で目指すところ（町の支援ビジョン ※当初）

①まずはモデル地区で、3年間取り組もう！（北斗・北成＋中央）

②組織づくり（モデル地区）に加えて、人づくり（人材育成）も取り組もう！

■ 5年間で目指すところ（町の支援ビジョン ※当初）

①モデル以外の地区も、5年間のうちで見直しを進めたい（横展開）

②後期計画期間からは、全町的に新たな地域運営体制でスタート。

「地域運営モデル地区」の取組み

●モデル地区1年目

（現状、課題、アイデア‥話し合いを重ねる）

・モデル地区会議（ワークショップ形式）
（各地区5～6回、地域住民＋行政）

・先進地視察研修（山形県川西町）
（事務局＋住民会議メンバーで）

・〇〇地区活性化プランとしてまとめ、
成果報告会を実施、他地区にも共有

（地域のこと）じっくり話せてよかった。
できることから実践したい！



●モデル地区2年目

（3つの取組み目標を設定）

①アクションプラン（やること）を整理
（「地区計画」として、協議の成果を見えるように）

②より良い地域組織のカタチを考える
（組織の見直しに向けて）

③できることから、できる人から
はじめてみる！
（トライアル事業、実践しよう！）

（話し合いは苦手でも）
実践なら関わりやすいという方も



■③できることからやってみる

地域のお母さんの野菜販売（朝市）





地域おこし協力隊と一緒に企画

スマイルギフト
コロナ禍での見守り







■③トライアル事業 若者発案のイベントで「明るい地域づくり！」

人口約130人（当時）の北成地区で、話し合いの熱量をカタチにしたいと、20代の若者が企画したイベントを全世代が参画して実施。巨大スクリーンなども手作りし、「自分たちの地域でこれだけのことができる」ということを再確認。

トライアルを支援する
行政補助金あり







北成地区元気に
車から映画鑑賞

【鷹栖】町北成地区の住民が、同地区を活気づけようと企画した映画上映イベント「クラシックシネマin北成」が、北成地区住民センター横駐車場で開かれた。町内外から定員いっぱいの車50台が来場し、映画「バンブルビー」を楽しんだ。

地域住民でつくる「北成モデル地区会議」が10日夜に開いた。町は昨年度、人口約130人の同地区などを「持続可能な地域形成推進事業」のモデル地区に選んだ。住民らが空き家活用策など活性化案の協議を進めており、今回が具体的な取り組みの第1弾。

同地区の住民約30人が、スクリーンの準備や受け付け、車の誘導などを担った。映画の上映前にはコメや野菜の詰め合わせが当たる抽選会が行われ、盛り上がりを見せた。

映画はSF『トランスフォーマー』シリーズに登場するキャラクター、バンブルビーにスポットを当てた作品。家族と訪れた旭川市の高校1年小野寺立晟（りゅうせい）さん(15)は「車から映画を見るのは初めてで、楽しみにして来た。今後もやってほしい」と話した。

同会議の秋山春雄委員長(73)は「イベントを通じて人を呼び込み、北成のファンを増やしたい。明るい地域づくりや地域住民の生きがいづくりにもつなげたい」と力を込めた。（折田智之）

企業の社会貢献や
学生関係人口の関わりも生まれる

「地域運営モデル地区」の取組み

●モデル地区3年目
（横展開に向けて仕上げの年）

3年間の検討を経て、
こんなカタチで始動しました

鷹栖町の地域運営組織

①「地区計画」がスタート
（まずは分野を絞ってスモールスタート
3つのモデル地区で連携して「防災」を学ぶ）

②地域の組織を見直し
（「協議と実践」を担う一体型組織として）

（モデル以外の2地区からも要望があり）
5地区一斉で組織見直しを進めることに

③行政支援のあり方を見直し
（人材・財政・情報の支援）



●5つの地区ごとに組織して活動
活動拠点の施設（地区住民センター）を管理運営

●公民館活動を担う運営委員会が母体
社会教育⇒地域運営の拠点へと発展
公民館区内の自治会が参画、ネットワーク

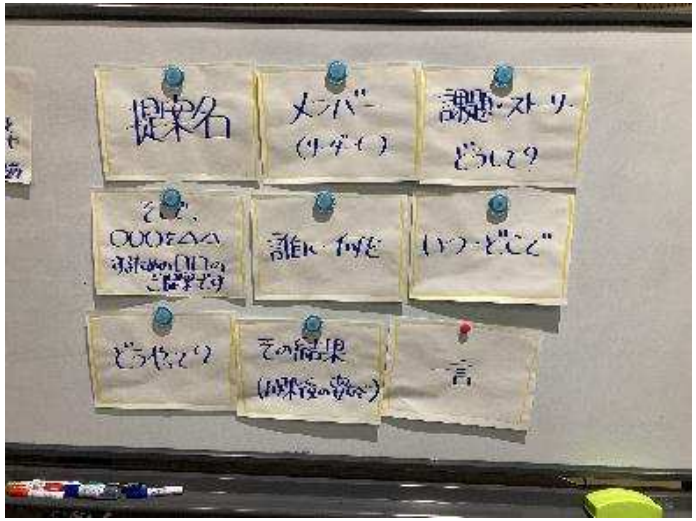
●イベント型から地域課題解決型へ
「協議と実践」を担う一体型組織として

●「地区計画」に基づく協働の地域運営
話し合いの成果を明文化、行政支援の仕組みも見直し

●「組織づくり」に加え「人づくり」を試行
全町規模で実践「まちLabo」

■（モデル地区と同時期に「人材育成」）
若者チームプロジェクト「まちLabo」（全町規模）実施







■目的　若い世代が仲間と楽しみながらチャレンジしていくこと場として企画。

■内容　①知る「町のこと」「企画やコミュニケーションスキル」

②「やりたい」ことを提案！仲間づくり（賛同者でチームをつくる）

③チームごとに活動。それぞれプロジェクトを実践！（最後に振り返り、共有）

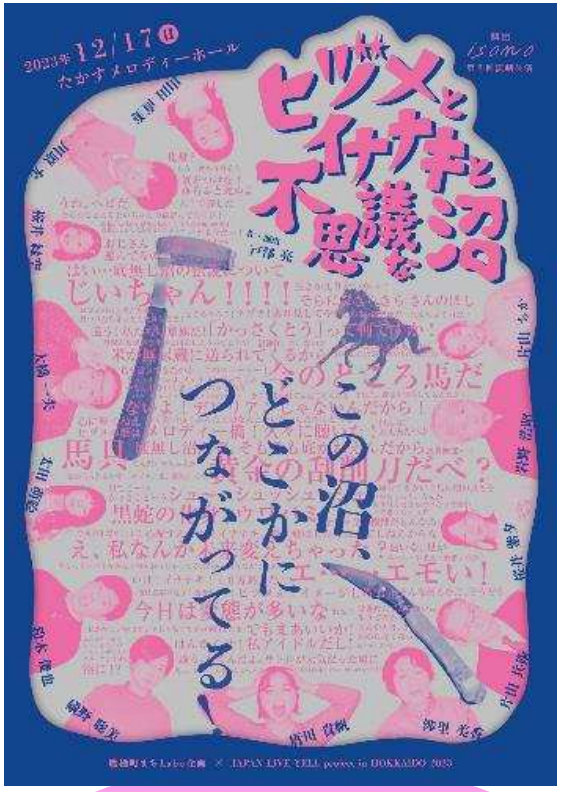
チームごとにプロジェクトを実践







子どもの遊び場づくり



町民劇団

■実績　各年度、5～6つ程度のプロジェクトが実践される。

参加者の声



同世代の知り合いがいない地で、
「まちLaboで同じ世代の仲間と活動ができて、
友人、知人がたくさんできて本当に楽しい！」

ずっとやりたいと思っていたけど
1人ではなかなかできなかった。
仲間ができると、一気に進んだ。



（20代、専門学校卒業後
移住した家具職人）

つながること
「場」づくりの価値を再認識

（こども食堂プロジェクト
30代　子育てママ）

②形成期のポイント（鷹栖町の場合）

モデル地区の設定・選定

●全5地区一斉、平等にこだわらない。
●百聞は一見に如かず。モデル事例からの横展開で、徐々に氷を融かす
●人口が少ない2地区で始動　⇒　リスク分散、お互いに意識する相乗効果

行政支援チームを構成

分野横断チームで
まとまって地域に入る体制
（ファシリとして役割を持って）

協力隊員・社協職員も一緒に

●分野横断の支援チーム（係長職）を構成。住民の話し合いに一緒に参加。
●話し合い⇒実践でムダがなくなる。（疑問をその場で解決）行政としても課題や方向性を現場で共有。

②形成期のポイント（鷹栖町の場合）

前向きに活動が生まれていく

●“この地区が将来どうなるかわからない‥”から「モデル」地区として先進事例となる。
　⇒　先進モデルとして取り組んでいることの責任感
●現状と将来をじっくり話して共有することで、地域への愛着も再確認。
　“自分たちの地域だから‥”“実践をしたい”と、声があがる。
●「話し合い」⇒「トライしてみる」の流れを実際に体験できたことで
「自分たちの地域でこれだけできる」「じっくり話し合いができて、うちの地区は●●を大切にしたい」
■最初からスムーズだったわけではなく、会議形式や外部の先進事例への抵抗感もあった‥
　⇒　できる人からやってみる
　　行政や講師以外の人との交流が良いきっかけとなった。

（例）他の地域の事務局メンバーとの交流
「本当にこうやってやってるんだ
（実感できて、具体的にイメージ化できる機会）」



鷹栖町の取組み経過

① 「起点」総合計画策定(H30-31)

② 「形成」地域運営モデル地区(R2-4)

③ 「始動」5地区で新運営体制始動(R5-7)

④ 「持続」地域運営体制第2期(R8-10)

取組み経過③　全5地区で地域運営組織スタート（R5～R7）

- ☑モデル地区での話し合いをもとに、全5地区が地域の体制を見直して、「地域運営組織」としての活動をスタートしました。
- ☑「協議」と「実行」を充実するために、新たに「集落支援員」を配置。

- ☑行政支援の見直し
  ①人的支援（集落支援員の配置）
  ②財政支援
  （拠点施設指定管理＋活動補助金）
  ③情報支援
  （協働のための連絡調整、地区担当）
- ☑地域運営「基本的な機能」を整理
  当面、協働を進める分野を共有し
  それに基づく計画、活動が展開された

（それまでの地区公民館主事1人体制から）
集落支援員が加わって２人体制に



地域運営組織が担う基本的な機能（活動の3本柱）を整理

「地域福祉・防災」

（集落点検、話し合いの促進、維持活性化）

行政や関係団体との連携した、見守りや
居場所づくり、生活サポートの必要な役割。
避難所の運営など自主防災活動。

「自治・協議」

（集落点検、話し合いの促進）

町内会などの地域団体や行政との連携、
連絡調整、話し合いを進める。

モデル地区実践をもとに、
行政と地域とで、
協働で取り組む3分野

「交流・つなぐ」

（集落点検、話し合いの促進、維持活性化）

●地区公民館で積み重ねた社会教育、「強み」の機能をベース（土台）として。
●地域拠点として、人が集まり、つながり、交流や活動が生まれていく仕掛け。
●人と人や、人と制度等をつなぐ機能。

「交流・つなぐ」の取組み

（公民館活動としての積み重ね）

地域行事の運営 関係づくり

・行事を運営するということ
　⇒ 「役割」「関わりの機会」でもある。
・実施を目的化せず、
　「課題解決」への発展までを見据えた
　行事運営、関係づくりの仕掛けを。

●女性の関わり　2人 ⇒ 20人

（北野地区）課題感 ‥ 運営委員30人中女性が2人、、
女性の関わりを増やしたいと、まずは気軽に話してつながる交流の場「女子会」を企画。何度か集まって話すうちに、「特技を生かしてイベントをやってみたい」と盛り上がり、女子会参加者で企画を実施することに。
（集落支援員は話し合いとイベント運営をサポート）
その後も参加者のコミュニティが継続し、センター事業の運営や委員として協力する方もいる。





「地域福祉」の取組み

●生活支援サービス
町社協などが全町域をカバー

・生活支援コーディネーター
・買い物支援（御用聴き）
・（生きがい）就労サポート
・日常生活支援サービス
（町内NPOが活動）

●見守り体制
福祉部局・社協などの見守り訪問

・ふれあい訪問員（全町域、社協）
・民生委員（複数町内会ごと）
・福祉委員（町内会ごと、社協）
・老人会友愛活動（単位老人会ごと）

既存の仕組み、団体が担う機能との連携による、
すき間を埋める（なくす）役割＝RMO

「地域福祉」の取組み

居場所と出番づくり

地域交流拠点、公民館の強み
「人が集う、交流する」場を生かして

「拠点型サロン」

を町内全ての地区で開設
※RMOが運営、または主催地域団体と連携

（集落支援員の方の意識）
・「雑談」から把握、変化に気づく
・定期的に集う、一緒に作る「役割」
※地域に飛び出す「出前型」の実施も



（中央地区）
一人暮らしになって、
子どもの近くに行く予定だったけど、
サロンができて楽しいから
まだ暮らし続けることに決めたよ



「地域福祉」の取組み

（交流拠点、居場所機能によって、
　把握したニーズを生かして取組みへ）

細かなニーズ
変化を把握、対応

（例）
・困りごとの発見 ⇒ 専門機関との連携
・サロン等参加のちょっとした移送
・センターの掃除雇用とお茶のみをセット
・指定ごみ袋販売、クリーニング取次ぎ
・ごみ出しサポート（特に農村部の冬季）
・集落支援員による定期訪問
　⇒　より重層的な見守り体制へ



（北斗地区）
「おかわりないですか訪問」
出向く訪問、集うサロンなど、
様々な手法を駆使して、
見守りや暮らしの充実を図る



「防災」の取組み

（地域運営組織単位での）

自主防災組織形成、活動が目標

・避難所（地区センター）の運営
　（開設訓練、マニュアルづくり）
　（防災備品の整備）
・地区の危険箇所マップづくり
・地域での啓発活動
・消防団、自治会、学校などとの連携



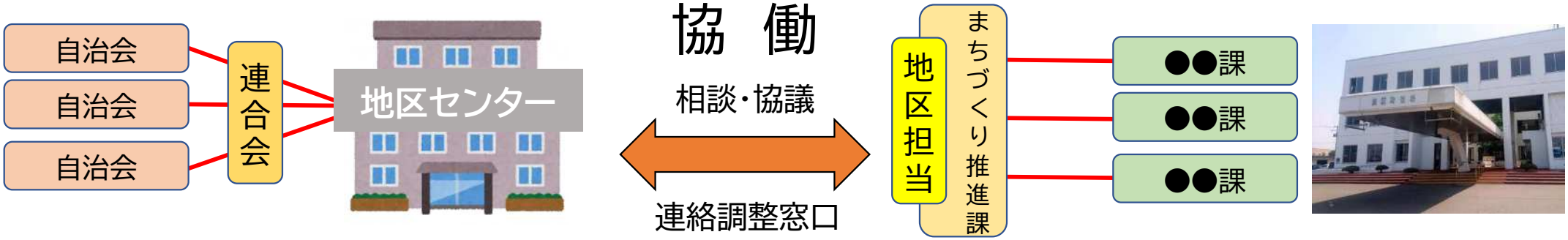






（北野地区）
集落支援員、自治会代表、
学校関係者などで勉強会を重ね、
避難所開設訓練を企画運営。

行政の支援、連絡体制



（連絡調整）

定期連絡会議

・事務連絡
・状況確認
※2か月に1回

その他、随時
　地区担当打合せを実施

（学び、研修機会）

研修の実施

・集落支援員、事務局研修
　（テーマ別）
・先進事例研究

※年に数回

（事例共有、横のつながり）

報告会の実施

・事例の報告、意見交換





行政の支援、関係人口との関わり

（関わりの機会、マッチング）

地域運営組織 × 関係人口

地域づくりに関心がある若者、
大学生等の関わりの機会づくりを支援

（主として）
・旭川市の大学（連携協定）
・札幌圏の学生、若者（NPOとの連携）
・首都圏の大学（連携協定）
・地元出身者

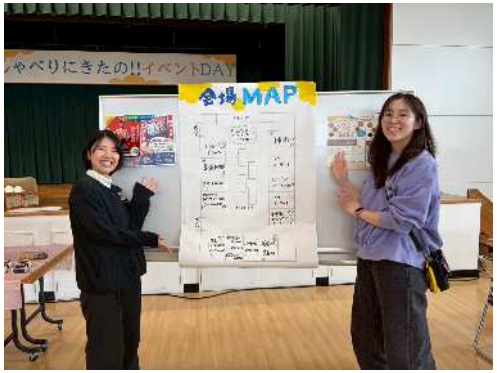
地域運営組織での活動、地域住民との関わりをきっかけに、
自主的に「たかすチーム」を形成し、通い続ける例も。

「ふるさと」とは自分が成長できたと感じる場所

関わる人が、居場所や役割、成長を感じられる場であろう！
お互いの思いと感謝が、地域を耕し、「土（壌）」を良くする。

「奪い合い（支配）」ではない
「成長、活躍を願う（出会い）」
関係人口の取組みを大切に♡





鷹栖町の取組み経過　まとめ

住民協議の合意形成の成果
活動の指針となる
「地区計画(地域づくりビジョン)」
はおおむね5年ごとで更新
※町総合計画とリンク

①H30-31　総合計画策定

5地区でワークショップを開催
住民主体で地域機能を持続する決意

②R2-4　地域運営モデル地区

3モデル地区(中央、北斗、北成)で地域ビジョン策定
地域組織の見直し検討協議、合意形成
トライアル事業の支援、まちLabo人材育成

③R5-7　5地区で新運営体制始動

全5地区で地域運営体制、行政支援体制の見直し
集落支援員の設置、拠点型サロン全地区で開設

④R8-11　地域運営体制第2期

地域の運営体制
行政の支援体制は
3年を基本として
検証による見直しを実施

④持続期　今後に向けて（鷹栖町の場合）

地区計画を策定し、3分野の活動を中心に取組みを積み重ねるなかで、
それぞれの地域性や個性、得意も見えてきている。
（例）・鷹栖：地域の小規模事業者との連携　・北野：女性の出番、活動
・中央：居場所づくり　・北斗：見守り、生活支援　・北成：交流人口






集落支援員さんの思い、信頼、活動の成果

④持続期　今後に向けて（鷹栖町の場合）

（行政としての思い）

●基本姿勢＝地域づくり、課題への対応は協働で取り組む
「自立」で都合よく片づけない

●仕組みや行政支援もゴールではなく都度見直す。（随時＋３年に1回の区切り）
走りながら、トライアンドエラーで修正を重ねてきた。
「やってみる ⇒ 一緒にフィードバックして見直す」の繰り返しを仕組み化する。
（事業ばかりでなく、団体経営や事務の支援など、細かなフォローが必要）

●地区の個別課題への協議、対応を深めていく （「得意」を「必要」に生かしていく）
自治会、交通、生活支援、公共施設　※互助等で担っていることが困難になるタイミング

「自治」を広げていくを積み重ねる。

「生活、暮らしに必要なこと、ケア」を、社会の大きな仕組みから、
手の届く範囲に少しずつ取り戻すことで、持続可能な社会を形成していく。